

## 第2回安全なMICEの再開と発展に向けた関係者協議会

### 議事概要

#### 1. 日程

令和4年3月29日（火）15:00～17:00

#### 2. 場所

オンライン

#### 3. 出席者

別紙出席者名簿のとおり

#### 4. 議題

(1) 開会

(2) 観光庁からの説明

(3) 今後の取組の方向性・とりまとめ案に関する意見交換

(4) 閉会

#### 5. 議事概要（出席者からの主な意見（議題3. 関係））

観光庁より議題について、資料に沿って説明。出席者からの主な意見は以下のとおり。

- ✓ 「アカデミアにおけるMICE誘致意欲の喚起」については、国内学会の国際化も主催者都合などにより実際にはなかなか難しい課題ではあることは理解している。ただ、我が国のプレゼンス向上にも重要なことであるので、「MICE誘致開催意欲の喚起」といったように、「誘致」だけでなく、その可能性も加味した「開催」の表記も加えていただきたい。
- ✓ コロナ禍における会場キャンセルリスクについて触れられているので、最新の情報をご紹介しておきたい。イギリス政府と保険会社がイベント向けの保険制度を作ったが、補償範囲が限定的であることと保険料が高額なため、あまり普及しなかった。画一的な対応は困難であり、開催地や会場がケースバイケースで対応するしかないのではないかと。また、欧州では、感染症のために中止を検討する、という状況では既になくなってきている。そのためコロナによるキャンセルリスクの回避、という議論はもう終わったのかなとも思うが、今後も同様の災害が出てくる可能性はあるので、経緯をご

紹介させていただいた。

- ✓ (M I C Eの)MとIについて、旅行会社やホテルに問合せが少しずつ戻ってきていると聞く。しかし、日本としての受入姿勢が分からないため、契約まで至らない。また、入国のプロセスも、日本は法務省や厚生労働省など、それぞれの省庁から別々に情報発信されており、非常にわかりにくい。例えばシンガポールでは入国に関するプロセスを1枚で図解してわかりやすく公開しており、今後日本でも一本化した情報をJ N T Oのホームページなどで発信する際は、こうした例も参考に、ウェブサイトやS N Sで発信していくとよい。
- ✓ 今後国境がオープンになった際には、すぐにM I C Eも受入再開に向け動けるよう準備しておく必要がある。オーストラリア政府観光局は、来月から日本国内で対面での説明会を再開したり、タイのT C E B (Thailand Convention & Exhibition Bureau) は、今月には既に国際会議関係者向けのファムトリップを実施し、LinkedInにも随時写真を交えて情報発信するなどの動きを進めている。日本もそうした動きを視野に入れながら、国境が空く際にはすぐにこうした情報発信ができるよう、準備を進めておいていただきたい。
- ✓ 我々も情報をどのようにお伝えするか常に考えているが、いま一番のポイントは、水際対策の緩和について、どこまで海外に伝えられるかである。5月末にはフランクフルトでI M E XというM I C E商談会が開催されるが、日本からもコンベンションビューロー、ホテルや旅行会社が参加する。日本はいつ水際がオープンになるのか、という海外からの声は多い。観光庁とも調整しながら情報発信を行っていききたい。
- ✓ 水際措置の緩和状況もあるが、安全なM I C Eの再開に後れを取らず取り組む必要がある。我々にもインセンティブや国際会議開催の可能性について問合せが増えてきており、事前視察の希望が多い。まずは我々の方でも事前視察を早く受け入れていくことが大事と考えているが、他方で、現状では実際の参加者の受入の条件がどう整備されていくのかに不確実性があり、旅費もどうなるか等様々な問題があるため、観光庁はじめ政府でも、そうしたことも念頭に置きながら対応を進めていただきたい。
- ✓ 「M I C Eの再開」について、展示会は（誘致するのではなく）「作る」立場なので、本協議会のとりまとめには、誘致に加え「開催」ということを入れていただきたい。また、M I C E全体としては、①M I C E再開に向けた環境改善、②その広報、③業界のプレーヤーが力を付けること、といったことがやるべきこととしてあると思うが、

④再開に向けた今後の課題についても少し話をすると、展示会についても、欧米と比べ再開が遅れている日本での早期再開や、デジタル化への対応、国際化、プレーヤーの育成等、他のMICEと同様の課題がある。また、特に強調したいのは、MICEは国や都市の経済戦略の達成に寄与するものであるということ。産業振興やイノベーション創出のためになることを申し上げておきたい。

- ✓ 展示会についての要望もお話すると、今後、展示会開催を後押しするための補助や、仮に感染拡大により展示会が開催延期・中止となった場合のサポート、キャンセル対応のポリシーがあると、主催者や関連業界も助かる。
- ✓ コンベンションと展示会は、徐々に領域が重なってきている。互いの良いところを学び合いながら取り入れていくことで、さらに高度化していくことができる。
- ✓ 厚生労働省の問題かとは思いますが、日本入国時に必要とされるPCR検査の陰性証明が非常に特殊で、1人当たりの費用が高額である。出国時にも陰性証明を英語で得ようとすると同程度の費用がかかる。今後国境が開いても引き続き陰性証明が必要となると、海外参加者を呼び込むにしてもかなりのコストアップ要因となる。普通の国で一般的に受けられるPCR検査でもよいこととすべき。
- ✓ 水際対策について、1日当たりの入国者数の上限が徐々に緩和されているが、現状いつまでに入国手続きをとれば入国できるのか、また個々のケースでどれほどの人数であれば問題なく入国できると考えてよいのかがわからないため、情報をいただけるとありがたい。
- ✓ 今回の協議会では様々な意見が出たが、よく議論をとりまとめていただき、感謝申し上げます。インセンティブ旅行の推進についてもきちんと記載いただいております、ありがたい。インバウンドの回復がなかなか見込めない中、ビジネス目的の訪日外国人をまず呼び込み、そこから観光や経済を復活させるという意味で、令和4年度からの東京都の施策の中でもMICEについては優先度が高くなっている。我々も通常ない施策メニューを用意し、MICE関係者の皆様に利用していただけるよう取り組んでいく。東京都でもMICE誘致戦略を策定していく予定であり、本協議会のとりまとめ内容もできる限り盛り込み、よいものにできればと考えている。政府の方でも、今回のとりまとめを観光立国推進基本計画の改定にも活かし、MICEの推進をしっかりと位置付けられるようにしていただきたい。
- ✓ 「一般観光とMICE誘致との連携」について感想を申し上げます。一般観光と比べ

るとMICEの方が参加者の目的が明確で、集団としてコントロールしやすい。そうした意味で、一般観光とMICE誘致とは連携していくとしても、MICE誘致に対する支援策を先行させて、そこから観光に引っ張っていく、というやり方もあるのではないかと。また、特に企業主催のコンベンションやインセンティブにとって、入国制限に加え、バンケットの復活が不可欠であるが、これをきちんと日本で行っていくことが、観光全体にもよい効果をもたらすということもありうるのではないかと。

- ✓ 情報発信という意味で、JNTOの令和4年度のテーマでは高付加価値旅行、サステナブルツーリズムとアドベンチャーツーリズムの3本を柱として挙げているが、中でも高付加価値旅行は、インセンティブ旅行とターゲットがかなり似ており、特に地方での消費を増やすという目的もある。ユニークベニューや、その他のコンテンツをどう発掘し、それを世界に伝えていくかが今後の課題と考えている。
- ✓ 今回のコロナ禍のような災害時は、色々な仕組みやビジネスモデルをアップデートしていくチャンスでもある。様々なハイブリッド会議が行われているが、昨年東京で開催されたSIGGRAPH Asiaに非常に注目している。これは、会議運営そのものを展示会をベースとした運営事業者が行っていたり、2020年度はオンライン開催されたものを進化させて2021年度はハイブリッド開催されたり、また会議のテーマがグラフィックデザインであるため主催者とデジタルとの親和性が高いこともあり、従来からMICE業界に携わる者の発想を超える会議運営の仕組みの工夫があった。日本のMICEをより魅力的に、かつ事業者としても稼げるものにしていくためには、今やっているやり方と違う事例を学び合い、できるだけ吸収していけるとよい。
- ✓ 経済産業省では「展示会等のイベント産業高度化推進事業」を実施しているが、事業で得ることができた成果については展示会だけではなくMICE全体に普及展開させていくことが重要と思料。今後も一緒に考えていけると幸い。

以上